

白地米のブランド化による収益UPプラン

農事組合法人白地農業生産管理組合
組合長 橋本 友幸

1 はじめに

白地集落は、昨年までは、2名の認定農業者と白地機械組合(任意組合)が中心となり水稲を耕作してきたが、これらの方も今でも精一杯の耕作面積で、今後耕作を引き受けることが困難な状態であった。

このままでは、白地集落の農業従事者の高齢化及び近年の米価の下落により、今後数年で高齢化及び先行き不安による耕作放棄の状態が発生する深刻な事態を迎えることが考えられた。

そこで、集落で話し合いを重ね、構造改善事業により昭和58年2月28日設立されていた農事組合法人白地農業生産管理組合(以下、法人という)の定款変更をして、農業経営を行うこととし、白地集落で農地の集約を図り、効率的な経営を行うことにより、持続可能な農業をしていくことにした。

その結果として、水稲の作付可能面積の99%以上の集約をすることができた。

しかしながら、農業経営を持続していくためには利益を出していくことが課題となる。

そのため、昨年まで各自が使用していた機械を白地農事実行組合(人格なき社団)が買取り、それを法人が借受けることとした。

本年度は農業経営の初年目のため、米を中心とした経営を行っている。

生活排水の入らない谷あい栽培する米(仮称、「ホタル舞う里、白地米」。以下「白地米」)は、現在はJA特裁であるがH29年には県特裁認証を取得することで差別化し、ブランド米としていきたい。

それには、昨年まで個人が行っていた直売先を引き継ぐとともに、新たな販路をさらに拡大していきたい。

また、法人は白地集落の農業者100%が組合員となっており、法人の事業は米の生産のみならず、より多くの集落住民(女性)の参加につながるようにアスパラガスや大豆の生産を行って、集落全体で取り組む営農を目指したい。

加工事業(味噌、もち等)については、現在わずかではあるが、集落の女性により行っているものを将来的には、法人の事業として取り込み拡大していきたい。

2 経営理念

- ・集落の農業、農地、環境を守る。
- ・品質、食味の良い米の生産・販売を行う。
- ・多様な営農活動をとおして、地域住民の連携と地域の活性化を図る。

3 農業経営の現状と計画

(1) 経営の現状

- ・ 法人設立の日 昭和58年2月28日設立
(平成27年7月26日定款変更により農業経営を追加)
- ・ 法人目的 農業生産の協業による組合員の共同の利益の向上
- ・ 経営面積 28.6ha(うち転作面積2.0ha)

作 付 内 訳(H28年)			
水 稻		水稲以外	
品 種	面 積	種 類	面 積
コシヒカリ	10.8ha	大豆	1.5ha
きぬむすめ	7.6ha	白ネギ	0.3ha
ひとめぼれ	5.1ha	小麦(二毛作)	0.6ha
ハクトモチ	2.5ha	アスパラガス	0.2ha

- ・ 取り組み状況 ①集落の水稲作付可能面積の99%以上の集約を行い、水稲を中心に作付けを行っている。
②省力化のため水稲苗のプール育苗を実施している。
③生活排水の入らない谷あい栽培する米(コシヒカリ)を有機肥料を使用し、農薬は極力使用しない栽培を行っている。
- ・ 農業従業者数 組合員数54名(全戸数100%参加)役員10名
土日は多数の役員以外の組合員が農作業に従事しているが、平日は専業農家、定年退職者等が従事している。

(2) 経営の今後の取組

- ・ 生活排水の入らない谷あい栽培する特裁米(コシヒカリ)を(仮称「ホタル舞う里、白地米」)としてブランド化し、有利販売を行うことで収益アップにつなげたい。
- ・ 将来的にはアスパラガス、加工品事業等で積極的に女性も法人事業に参画し収益を得られるようにしたい。
- ・ 後継者の育成を図り、将来につなげる営農体制の構築を図りたい。

(3) 農業機械・施設等の整備状況(H28年、2月現在)

(ア) 法人所有

区分	数量	規格・能力等	導入年度	備考
作業場	1	鉄骨平屋建て(130.5㎡)	S58	
種蒔機	1		H28	

(イ) 実行組合所有(無償貸借)

区分	数量	規格・能力等	導入年度	備考
トラクター	1	クボタ 25PS	H28 (購入年度H17)	
トラクター	1	クボタ 30PS	H28 (購入年度H18)	
トラクター	1	クボタ 34PS	H28 (購入年度H22)	
乗用田植機	1	クボタ 6条植え	H28 (購入年度H19)	
乗用田植機	1	クボタ 4条植え	H28 (購入年度H25)	
ドライブハロー	1	2600mm	H28 (購入年度H17)	
ドライブハロー	1	2800mm	H28 (購入年度H22)	
畦塗機	1		H28 (購入年度H22)	
乾燥機	1	18石	H28 (購入年度H21)	
乾燥機	1	22石	H28 (購入年度H22)	
籾摺機	1	3インチ	H28 (購入年度H24)	

(ウ) 機械組合所有(無償貸借)

区分	数量	規格・能力等	導入年度	備考
コンバイン	1	クボタ 4条刈り	H28 (購入年度H23)	岩美町次世代 につなぐ地域 農業バックアッ プ事業対象
トラクター	1	クボタ 34PS	H28 (購入年度H27)	集落営農体 制強化支援 事業
ドライブハロー	1	3000mm	H28 (購入年度H27)	

(エ) 個人所有(賃貸借)

区分	数量	規格・能力等	備考
コンバイン	1	クボタ 3条刈り	H28のみ臨時的に借入する

4 生産・販売の現状と計画

(1) 作付面積

(単位:ha)

項 目		H27 (実績)	H28 (計画)	H29 (計画)	H30 (計画)	H31 (計画)
食用米	コシヒカリ	22.1	10.8	11.9	11.9	11.9
	うち「白地米」		6.2	6.2	6.2	6.2
	きぬむすめ		7.6	7.0	7.0	7.0
	ひとめぼれ		5.1	4.0	4.0	4.0
	ハクトモチ		2.5	2.0	1.5	1.5
飼料米	1.2	0.0	1.1	1.6	1.6	
大豆	6.9	1.5	1.5	1.5	1.5	
白ネギ	0.9	0.3	0.3	0.3	0.3	
小麦	0.8	0.6	0.6	0.6	0.6	
アスパラガス	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
合 計		32.1	28.6	28.6	28.6	28.6

(注)H27年度は個人経営の実績である

(2) 出荷計画

(ア) コシヒカリ

(単位:kg)

出荷先/年度	H28	H29	H30	H31
JA	25,500	29,600	28,980	26,550
個人 保有米	9,000	9,000	9,000	9,000
個人 直売(白地米)	6,000	9,000	12,000	18,000
計	40,500	47,600	49,980	53,550

*白地米をブランド化し、個人への直売を増やしていく。

(イ) きぬむすめ

(単位:kg)

出荷先/年度	H28	H29	H30	H31
JA	25,000	24,000	25,500	27,600
個人 保有米	2,400	2,400	2,400	2,400
個人 直売	3,000	3,000	3,600	3,600
計	30,400	29,400	31,500	33,600

(ウ) ひとめぼれ

(単位:kg)

出荷先/年度	H28	H29	H30	H31
JA	20,400	16,800	18,000	19,200
計	20,400	16,800	18,000	19,200

(エ) ハクトモチ

(単位:kg)

出荷先/年度	H28	H29	H30	H31
JA	6,600	5,200	3,600	3,600
個人 保有米	2,400	2,400	2,400	2,400
計	9,000	7,600	6,000	6,000

(オ) 合計

(単位:kg)

出荷先/年度	H28	H29	H30	H31
JA	77,500	75,600	76,080	76,950
個人 保有米	13,800	13,800	13,800	13,800
個人 直売	9,000	12,000	15,600	21,600
計	100,300	101,400	105,480	112,350

5 がんばる農家プラン目標

プラン実施期間 平成28年～30年度(3年間)

目標年度 平成31年度

(1) 白地米のブランド化による直売拡大

- ・ 数値目標:直売比率を向上させる (単位:kg)

項目		H28 (計画)	H29 (計画)	H30 (計画)	H31 (目標)
白地米	出荷量	6,000	9,000	12,000	18,000
直売比率 (米販売全体に占める 白地米の出荷量%)		5.9%	8.9%	11.4%	16.0%

(2) コシヒカリ全体の品質向上

- ・ 数値目標:コシヒカリ全体の1等米比率を向上させる。(単位:%)

項目		H24～27 (実績)	H28 (計画)	H29 (計画)	H30 (計画)	H31 (目標)
1等米の 比率	コシヒカリ	32.0	40.0	45.0	50.0	60.0

(注)実績値は岩美町の過去4年平均で参考値

- ・ 数値目標:白地米の食味を向上させる。(単位:点)

項目		H27 (実績)	H28 (計画)	H29 (計画)	H30 (計画)	H31 (目標)
食味		78	80	82	85	85

(注)H27実績は個人の実績(1戸、サタケ食味計で計測)であり参考値
H28は普及所で測定予定

(3) 適切な除草・施肥管理による収量向上 (kg/10a)

項目		H27 (実績)	H28 (計画)	H29 (計画)	H30 (計画)	H31 (目標)
食用米		385	386	407	432	460

(注)H27実績は個人の実績(白地集落平均)である。

(4) アーム式草刈機導入による労働時間の削減

項目		H28 (見込)	H29 (計画)	H30 (計画)	H31 (目標)
畦草刈労働時間		1,600	1,135	1,135	1,135

*H28は1回の実績400時間から年4回分を算出した。

6 プラン目標達成のための課題と取り組み

(1) 目標達成のための課題

- ① 白地米のブランド化による直売拡大
 - (ア) 直売米の販売先は、いままで個人的な紹介が主であったが、白地米を有利販売するためには、販路拡大が必要である。
- ② コシヒカリの品質向上
 - (ア) 個人直売を増やすためには、小石や草の種子などの異物混入などをなくし、米の外観品質を良くする必要がある。
 - (イ) 個人直売を増やすためには、食味向上が必要である。
現在堆肥主体での栽培となっているが、施肥方法の検討も必要である。
- ③ 適切な除草・施肥管理による収量向上
 - (ア) 水持ちの悪い圃場が多いため、除草剤の効果が十分でなく雑草が多い。
 - (イ) 土壌診断の結果、堆肥を連用しており、腐植、リン酸は多く、ケイ酸等の微量元素が不足しており、倒伏につながっている。
 - (ウ) 葉色に応じた追肥や防除が出来ていなかったため、籾の充実が悪かった。
- ④ 草刈作業の効率化
 - (ア) 草刈り作業は山間地のため、畦の急傾斜地が多く、労力負担も大きく・経費も大変掛かっている。(畦面積おおよそ3ha、年4回、延時間1,600時間、経費128万)
 - (イ) 高齢化も進んでいるため、農作業安全上も心配な作業場所も多い。

(2) 課題に対する取り組み

- ① 白地米のブランド化による直売拡大
 - (ア) 白地米を鳥取県特別栽培農産物の認証を取得して、ブランド化し、オリジナル米袋やシールを作成し直売を拡大する。
 - (イ) 人と環境にやさしい「緑肥栽培(れんげ農法)」も取り入れ、イメージアップを図りたい。
 - (ウ) 幸い、当地区にはホテルの会というホテルの育成、放流をおこなう組織があり、この組織の活動と連携した販売、また、小学生の農業体験等の交流事業等を通じた販売等により直売の拡大を図る。
 - (エ) 上記のような取組や地域の特色、生産者の思い等のチラシを作成して、これまでの販売先や道の駅等で配布をして販路を拡大する。
 - (オ) インターネットの直売サイト等を利用して直売の拡大を図る。
- ② コシヒカリの品質向上
 - (ア) 色彩選別機の整備を行い食用米の品質向上を図ることにより、ブランド化した米の直販の拡大と顧客からの信頼を得る。
 - (イ) コンバイン導入により、適期刈り取りを行うことができるので、品質向上が可能となる。
 - (ウ) 食味計付きコンバイン導入により、個々の圃場ごとの食味を測ることが可能となり、圃場ごとに施肥等の改善を図ることができる。
 - (エ) 倒伏防止と食味向上のため、各種土壌改良剤等の施用を行う。
- ③ 適切な除草・施肥管理による収量向上
 - (ア) 水持ちの改善のため、畦塗りをを行い、田の雑草を削減する。
 - (イ) 圃場に応じた施肥を行い過剰な施肥をしないこと、また、倒伏防止のため各種土壌改良剤等の施用を行う。
 - (ウ) 幼穂形成期からの葉色をよく観察し、追肥を実施する。
- ④ 草刈作業の効率化
 - (ア) トラクター用アーム式草刈機の導入により、草刈作業の軽労化、時間短縮によるコスト低減及び危険防止につながる。
れんげのすき込み作業にも利用することで有効利用する。

7 具体的な取組と支援体制

具体的な取組項目	H28 (計画)	H29 (計画)	H30 (計画)	H31 (目標)	役割分担
白地米の販路拡大取組					
①オリジナル米袋及びチラシの作成(版下のみ)	◎				県、町、事業主体
②道の駅、イベント等参加による販売活動	○	○	○	○	事業主体
③れんげの栽培取組と県特裁認証取得	○	○	○	○	事業主体 (指導等:県、JA)
コシヒカリの品質向上					
①色彩選別機・米選機・計量機の整備	◎				県、町、事業主体
②コンバインの整備		◎			県、町、事業主体
③食味向上のための水管理・施肥技術の向上	○	○	○	○	事業主体 (指導等:県、JA)
④適期刈取の実施	○	○	○	○	事業主体
⑤乾燥作業場改装、乾燥機整備	○				事業主体
⑥籾摺り機の整備			◎		県、町、事業主体
食用米の収量向上					
①畦塗りの実施	○	○	○	○	事業主体
②適切な施肥の実施	○	○	○	○	事業主体
草刈作業の効率化					
①トラクター用アーム式草刈機の整備による畦畔作業の効率化		◎	○	○	県、町、事業主体

◎:鳥取県、岩美町の支援の必要なもの(がんばる農家プラン事業)

○:事業主体によるもの(補助事業活用無し)

8 支援事業の内容(年次計画)

(単位:千円)

項目	H28	H29	H30	H28~30	負担区分
①色彩選別機、米選機、計量機の導入	3,359	—	—	3,359	県:1/3 町:1/6 事業主体1/2
②籾摺機4インチの導入	—	—	840	840	
③オリジナル米袋・チラシの作成	400	—	—	400	
④食味・収量センサー付きコンバイン4条刈りの整備	—	6,760	—	6,760	
⑤トラクター用アーム式草刈機の整備の整備	—	1,019	—	1,019	
計	3,759	7,779	840	12,378	

(上記事業費は税抜き額)